

# 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572710424
法人名	有限会社 Slow and Slow
事業所名	グループホーム悠々庵花ごよみ
所在地	横手市大雄字西館合75 (電話) 0182-56-5855
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年9月15日

【情報提供票より】(21年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年10月15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤16人, 非常勤0人, 常勤換算16人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	5,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(60,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	2	要介護2		3	
要介護3	6	要介護4		5	
要介護5	2	要支援2		0	
年齢	平均 86歳	最低	72歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立大森病院 石成歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな田園地帯に建てられ、静かな環境で生活している。「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」を理念に掲げ、今までの生活の継続を目指しており、管理者、職員はその理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。職員間の関係も良好で、会議の場等ではもちろんのこと、日々も生活の中でも、お互い気づいたことや業務上の提案などを気軽に話せる関係となっている。利用者の重度化や終末期ケアに関してホーム独自にマニュアルを作成し、内部研修を行うなど体制を整えており、今後の対応に期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で課題として挙げられていた、介護計画の内容については、詳細なアセスメントにより具体的に記入され、利用者一人ひとりに合ったものとなっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価を行う意義を理解しており、評価結果を運営推進会議で公表し、そこで出された意見を運営の参考にしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	市の担当者、地域包括支援センター、地域住民、民生委員、家族から参加していただいている。外部評価の結果報告や日々の活動内容を報告し、出された意見を運営に活かしているが、不定期の開催となっているため、今後、定期的な開催となるよう、開催計画を検討する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回、利用者の日常の生活状況を便りとして家族へ報告している。これとは別に金銭管理の状況についても報告し、確認を得ている。家族からは面会時に意見や要望を出していただき、運営に活かしている。遠方に居住している家族へは、電話連絡で意向を確認している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民からボランティアなどの協力を得るなど、地域とのかかわりを大事にしている。また、ホームで企画した行事に参加を呼び掛けるなど、地域の方たちとの交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立者の思いのこもった「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」を理念に掲げ、これまでの生活の継続を目指して支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は理念を共有し日々のケアにあたっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民からボランティアなどの協力を得る等、地域とのかかわりを大事にしている。また、ホームで企画した行事に参加を呼び掛ける等、地域の方たちとの交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、結果を運営推進会議で公表している。そこで出された意見も参考に運営に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者、地域包括支援センター、地域住民、民生委員、家族から参加して頂き、外部評価の結果報告や日々の活動内容を報告し、出された意見を運営に活かしている。		不定期の開催となっているため、今後は、2か月に1回の定期的な開催となるよう開催計画を検討されることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの介護相談員の派遣を受け入れ、事業所、利用者双方からの相談に応じてもらうなど、良好な関係を気づいている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、家族へ便りとして利用者の日常の生活状況を報告している。また、便りとは別に金銭管理についても毎月家族へ報告し、確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見、要望等を聞くように配慮している。また、遠方の家族については電話で要望等を聞き、それぞれ運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんど無いが、やむを得ない異動については、事前に利用者へ伝えるなど、混乱しないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修や、外部研修へも積極的に参加している。参加した職員は、研修内容を復命し、他の職員が内容を確認している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の協議会、市の協議会へ加入し、同業者との意見交換や交流する場を設けている。また、そこで得た情報等を運営に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が、本人及び家族と面接を行ったり、見学に来てもらうなど、徐々に事業所の雰囲気に慣れてもらうよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と共に生活するということを強く意識し、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族から希望・意向を把握し、できるだけそれに沿うように支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族からの要望や職員からの意見を参考に、アセスメントを十分に行い介護計画を作成している。また、移動や排泄など独自の項目を設け、現状・目標を設定し達成度を記録している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が記載されておらず、定期的な見直しは行われていない。また、カンファレンスを行い、話し合いの場は設けられているが、それが記録として残っておらず、その内容を反映した見直しは行われていない。	○	今後は、カンファレンスの内容を記録に残し、介護計画に期間を明記するとともに、定期的な見直しや、状況に変化があった場合の随時の見直しを検討されることを希望する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院について、家族の通院介助を基本としているが、希望があれば職員が行うなど、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明・同意を得た上で、協力医療機関の受診を行っている。希望があれば今までのかかりつけ医の受診にも配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	見取りケアのマニュアルを作成し、内部研修を実施するなど、家族・医師・職員の間で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はされていない。個人情報等の記録についてもきちんと保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの生活リズムを把握しており、本人が望む過ごし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に応じて、食形態を変える等、配慮している。職員も利用者と同じテーブルで食事をし、会話をしながら和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっておらず、利用者の希望や、状態に応じて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴を把握し、昔話の朗読や生け花等、その人に合った楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者から外出の希望はなかなか出ないが、季節ごとの外出を支援している。また、家族も一緒に外出するなど、柔軟な対応に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	防犯上、夜間は玄関を施錠しているが、日中は玄関に鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の役割分担表を作成し、消防署へ届出ている。年1回ずつ防災訓練・消火訓練を行い、2年に1回は消防署からも立ち会ってもらっている。また、地域住民からも参加してもらう等、良好な関係を築いている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はチェック表により、一人ひとりの状況を把握している。		チェック表の様式が個人用、全体用と多岐に亘るため、記録の目的を整理し、幅広く状況を把握できるよう検討されることを期待する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有生活空間は、適度な採光・温度等、利用者にとって心地よいものとなっている。また、季節感のある花や果実、外出時の写真が飾られるなど、居心地のよい空間となるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使いなれたものを持ち込み、安心して生活できるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。